

東北大鬼城句会のこと

村 上 幹 也

先年の群馬県伊香保温泉での同期会の帰途、榛名湖周辺を見学した後、何人かの学友諸氏が鬼城草庵にも立ち寄られた。鬼城草庵は、平成3年に展示館を増設し、「村上鬼城記念館」として、俳人村上鬼城の書と俳画などの揮毫作品や正岡子規とか高濱虚子など鬼城所縁の文人の書簡などの展示を行っている。ちなみに鬼城は私の実母の父、つまりは母方の祖父というわけである。なにせ年金生活者が個人ですることなので細々と続けるほかは無いと割り切っているが、展示資料の99パーセントは実物なので全国の俳句愛好家や好事家には、態々群馬県の高崎まで訪ねて来る人々が後を断たないのは嬉しいことである。



昨年秋には、神田の教育会館にある一ツ橋画廊で生誕140周年記念「村上鬼城俳書俳画展」を催した。場所が東京で、実行委員長を鬼城外孫の井田進也（大妻女子大学比較文化学部長）が務めたこともあって、比較文学研究者や出版関係者などが多く来場され、「今なぜ鬼城なのか」というあたりの問題提起も多少は波紋をよんだようであった。このとき顔を出してくれた武蔵好彦・平山隆一両氏などは、”義理がらみ“もあろうが、件の東北大鬼城句会なるものの創設の音頭取りに变身していくのである。

今年11月の同期会の準備を進めていく過程で、武蔵氏から教養人としての生き方についての感懐が示され、少し勉強もしなくてはということから、俳句を嗜もうという話が進んだ。私にカラオケ教室への参加をと言われたら困るのと同じで、これは大変と感じた人もいたろうに、まずは出発進行ということに決まり、7月4日（月）に第一回を開催する。場所は学士会館だが、手配をした武蔵氏の案内掲示用の名前が、「東北大鬼城句会」とあって、ネーミングだけは最初から一流である。なにしろ俳壇史的には、東大俳句会・京大俳句会・高商（一ツ橋）俳句会、三田俳句会etcなどは聞いているが、東北大はあまり知られていない。いやいたいた、われらが先輩では夏目漱石門下生で東北大に教師として赴任した小宮豊隆と、大正14年4月に東北大工学部に入学した後、昭和5年には夭折した「幻の俳人」芝不器男を挙げなくてはなるまい。

あなたなる夜雨の葛のあなたかな

不器男

一句は伊予松山からはるか北の仙台まで流れてきた遊子の嘆きの声である。



さてまだ湯気を立てているようなこの新米の俳句会もすでに年内に三回の句会をこなし、来年の1月27日（金）には第4回句会を催すことになったので、一応定着したものと見做し、この場を借りて各回の報告をしておこう。互選の多かった句、私の気に入った句など、基準はややアバウトである。

<第1回>句会 7月4日（月） 兼題 青田・雷・含羞草（おじぎそう）

房総の海に押し出す青田風

蓮圀地（れんいち）

（鈴木鍊一 法36卒）

含羞草愚直貫く生なりき

蓮圀地

遠耳の母のつぶやき日雷

蓮圀地

雷や子犬とびこむ腕の中

幸司

（小林幸司）

段丘の青田の先に父居ます
ふるさとは水旨くして青田かな
頑なに青田見張りて小百姓
遠雷やコード抜くべき抜かぬべき

隆一 (平山隆一)
俊知 (としつぐ) (合田俊知) 客員
谿聲 (けいせい) (村上幹也)
貞 (てい) (松本 貞)

<第2回>句会 9月22日(木)

兼題 野分・萩・秋の蛇(穴惑)

名月や孫に聴かせる本生譚
娑婆氣か娑婆塞ぎかや穴惑
鶏鳴や暗雲裂きて野分呼ぶ
萩一枝添へてわが家の月見かな
湯くもりを拭けばみちのく萩の花
若き日の淡き心や萩の花
法師蟬己が出番を知ってをり

隆一
隆一
隆一
仲安 (ちゅうあん) (中野安弘)
貞風 (ていふう) (松本 貞)
好彦 (武蔵好彦)
谿聲

<第3回>句会 11月22日(火)

兼題 七五三・初霜・達磨忌・茶の花・泥鰌掘る

はつしもを長靴でふむ幼き日
捨て去りし故郷や今お茶の花
泥鰌掘る心も変る世も変る
ファミレスの客に祝はれ七五三
玄奘の学びし基壇冬温し
達磨忌や雪舟筆の目を思ふ
主人亡き茶の花垣や昼の閑
裏ん川と呼びし用水泥鰌掘る
母の背で何の夢見る七五三
茶の花に触れ合ふ肩の二人かな
幾代の暖簾に生きて七五三

弁慶
貞風
貞風
隆一
隆一
隆一
谿聲
谿聲
仲安
蓮圀地
蓮圀地



国際俳句については、この夏米国ニューヨーク州ロチェスター市にある国立
聾工科大学の教官及び学生達が鬼城草庵を訪ねて来て当方と交歓した。また私
は『國文學』(學燈社刊) 2005年9月号に、『村上鬼城と俳画』という小文
を執筆したのでご笑覧いただければ幸いである。 以上

<第4回>句会 1月27日(金)

◎子規の里明治の雪もこんな雪	貞風
◎一匹と一人と祝ふ雑煮かな	俊知
◎静の舞このあたりかと初詣	俊知
◎破魔矢手に鬘肩見てゐる栈敷かな	俊知
◇初鴉広き歩道をまた戻り	如雨
◇箏の音ややはらに残る去年の酔ひ	如雨
◇初明りもの憂き年齢になりけり	如雨
◇戌年に犬も着飾る初日かな	弁慶
◇お正月乗る子ねだる子肩車	貞風
◇初便り天竺僧の願ひごと	隆一
◇書初や天神様の軸の前	隆一
◇古稀といふ塚に至れり松飾	蓮圀地
◇初雪に鉢植の枇杷傾きぬ	武司
どんど焼関西弁の孫も行く	修人
小春日の陽を背に受けてうたたねす	仲安
▽若水やまだ穂の暗き庭稲荷	谿聲
▽振りかぶり土打ち毀ち鍬始	谿聲

<第5回>句会 3月23日(木) 雪解・春の風邪・雉・雛・桃の花

◎炭鉱の消えし空知や雪解川	修人
◎ふくろうの餌場ひろげし雪解かな	俊知
◎三日後は桃花と笑むや紺がすり	如雨
◎雪解やごうごうとして岸を食む	蓮圀地
◎老いに耐え片目の雉の立ち居たり	蓮圀地
◇読みさしの厚き本憂し春の風邪	如雨
◇スカートの短き街や雪解けぬ	如雨
◇南無飯縄大権現や春の風邪	修人
◇雛まつり今年も嫁ぐこともなく	貞風
◇雉の鳴くたきぎ拾いのなほ淋し	貞風
◇雪解水有磯海 ^{ありそのうみ} の幸運ぶ	隆一
◇いさかひて睦みて姉妹雛祭	蓮圀地
春分に鐘打つ子等の声はずむ	武司
義貞が剣投げし崎春の波	弁慶
▽山裾の無住寺の句碑桃の花	谿聲
▽あなとりて朝までテレビ春の風邪	谿聲

以上

東北大鬼城句会報 鬼城草庵[村上鬼城記念館]

<第6回>句会 5月26日(金) かいどう かいどう やまめ
 海棠・夏めく・山女・祭 当季雑詠を含む7句

村上谿聲選 ◎特選 ◇佳作

◎緩る緩ると初夏の旅する八高線	修 人
◎川べりに露天の出湯山女釣	修 人
◎篠の子の指したる天の広さかな	如 雨
◎夏めくや山椒味噌を添ふ朝餉	如 雨
◎夏めいて兜の軸に祖父思ふ	隆 一
◎湯女の碑の若葉にこもり名も知れず	貞 風
◎雲に乗り子連れ雷神過ぎ行きぬ	俊 知
◇それぞれの川の色持つ山女かな	弁 慶
◇串にさす掌に官能の山女かな	弁 慶
◇下山して川原の声の夏めきぬ	貞 風
◇うんちくを聞き惚れかじる山女かな	貞 風
◇ぶらんこの若葉に届け靴飛ばし	貞 風
◇母の日に母と居るとき温きかな	青 郎
◇山道の意外に近し雪解沼	青 郎
◇夏めくや駅が吐き出す羊群	蓮 圀地
◇海棠に還らぬ日々のありにけり	蓮 圀地
◇浮子一点山女の谷に入魂す	蓮 圀地
◇胸元に水晶一珠夏めける	蓮 圀地
◇鼻化粧稚子は祭に育つなり	蓮 圀地
◇浅草に飲みて日跨ぐ啄木忌	如 雨
◇降り立てばすでに祭の中にをり	如 雨
◇連翹の枝ためらはず越境す	如 雨
◇手術後の祝の膳に初鯉	仲 安
◇山深しランプの下で山女焼く	仲 安
◇亡き妻と孫連れて来し夏祭	武 司
◇花突く目白の番(つがひ)隠れをり	武 司
◇苺摘む幼子吾を振り返る	修 人
◇旨さうな屋台に並ぶ祭かな	修 人
◇登り着く村社拝殿昼蛙	隆 一
◇山門の奥に海棠花明かり	隆 一
◇八重桜散りたる後も花むしろ	竹 風
◇竹の音や箕輪の里につつじ咲き	竹 風

村上谿聲作

無愛想な苗売りにして頼みあり
 少年の山女掬ひし清流よ
 海棠や夢二の女想はせて
 木鐸の名こそ惜しみぬ桐の花

東北大鬼城句会報

学士会館

＜第7回＞句会 7月28日（金）

夏の波・清水・閑古鳥・滝・螢 当季雑詠を含む5句

村上谿聲選 ◎特選 ◇佳作

◎夏草を除けて確かむ歌碑の陰 如 雨
◎郭公の声やみ貨物列車来る 如 雨
◎流木や千里連なる夏の波 如 雨

一本の流木から千里連なる海の先を連想するとは、まさに椰子の実の藤村の詩情に通じている。

◎砂山を築けどさらふ夏の波 武 司

昔、童謡を唄った記憶と、海での実体験とが緬い交ぜになっていて、共感を覚える。

◎藪中の小滝の虫にヤマメ飛ぶ 興 武 司

山女や岩魚は餌である昆虫類を空中捕獲する業を持つ。下五は「飛ぶ山女」としても良い。

◎紺碧のマルタの海や夏の波 興 三

名句が出来てイタリア旅行の思い出が蘇り、費用も若干回収されたと言う気分。

◇郭公の木霊となりぬ奥の院 修 人

◇羽衣の滝美はしく荒ぶれり 修人 ※中七は「麗しく」か？

◇老鶯や旧友集ふ鬼城庵 修 人

◇ゆらゆらとわが顔映る清水かな 修 人

◇供ふれば遺影微笑む麦の秋 小松 洋 子

◇夏の波浜昼顔に翳りなし 洋 子

◇螢火や愛蔵の書に憶への字 洋 子

◇山裾の小さき画廊夏椿 洋 子

◇最上川芭蕉拝みし糸の滝 弁 慶

◇山清水旅路を重ねここにあり 弁 慶

◇蒼天に郭公の声澄みわたる 弁 慶

◇滝に立つ己小さきナイアガラ 俊 蓮 圀 池

◇朝市に旬を拾ひつ半夏生 蓮 圀 池

◇清水汲んで山気を点てる野点かな 蓮 圀 池

◇放物線双曲線の螢かな 蓮 圀 池

◇閑古鳥下界は藁を焼く煙 貞 風

◇何食はぬ蟬の合唱原爆忌 貞 風

◇結果待つ待合室の団扇急く 仲 安

◇入魂の墨清清し白緋 隆 一

◇浮き草の憂きこともなし夏の波 俊 知

＜互選特選句より＞

▽群青の海を溶かして夏の海 俊 知

武・仲

村上谿聲 作

葉変は神の御業か半夏生

如・隆

合宿の朝のしじまを閑古鳥

瀧涼し昔悲恋の物語

湖の闇より木々へ舞ふ螢

滾々と清水湧かせて珈琲館

貞